



あけましておめでとうございます。
今年最初のテーマは副腎皮質機能亢進症（クッシング症候群）です。
犬で最も多いホルモン異常です。

原因

副腎から「コルチゾール」というホルモンが出すぎることが原因です。

下垂体性の場合（下垂体の腫瘍）

脳下垂体は普段、副腎皮質刺激ホルモン（ACTH）というホルモンを出し、ACTHは副腎にコルチゾールを分泌させます。

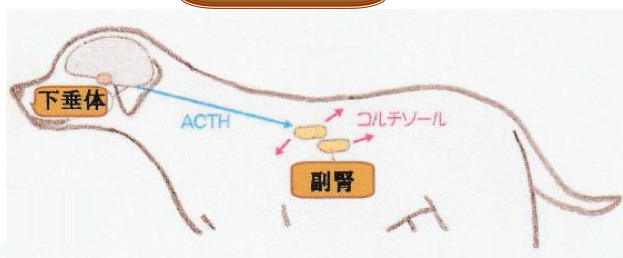


下垂体に腫瘍ができることでACTHが出すぎ、そのため副腎からコルチゾールが出すぎようになります。

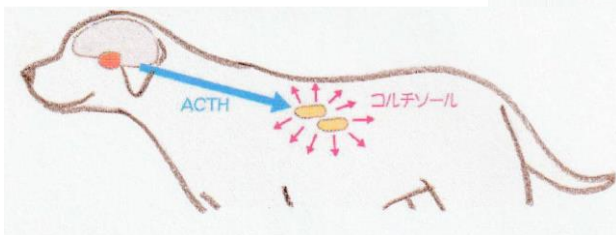
副腎腫瘍の場合

副腎が癌や良性腫瘍になることでコルチゾールが出すぎます。

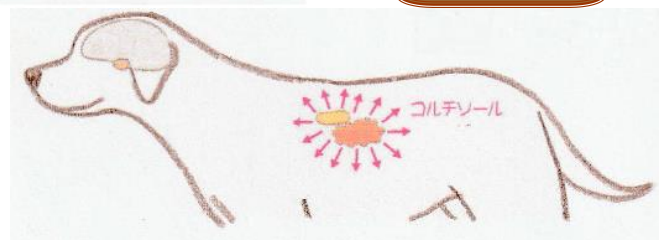
健康な時



下垂体クッシング症候群



副腎腫瘍



クッシング症候群の犬の8割が下垂体の異常あたるんだ。
どんな犬種でも見られるよ。6～10歳で発症する犬が多いよ。

症状

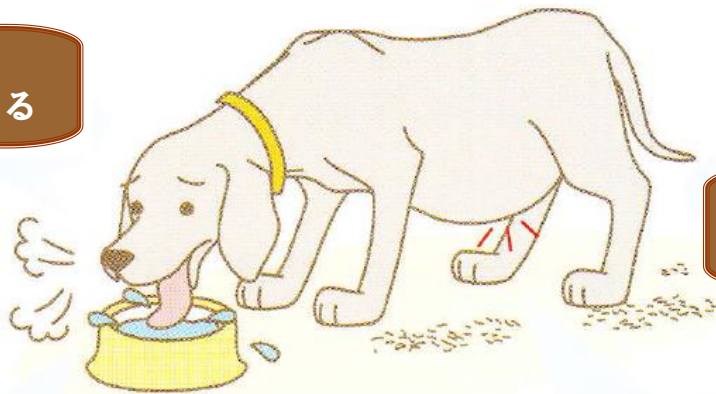
毛が抜ける
皮膚病が治りにくい

体全体の筋肉が減ってしまうので…
手足が細くなり、足腰が弱り歩くの
を嫌がる

水を飲む量が増える
尿の量と回数が増える

食欲が増える

息が荒い



お腹がポッコリと
ふくれる

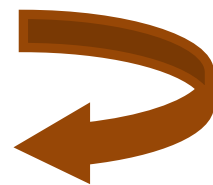
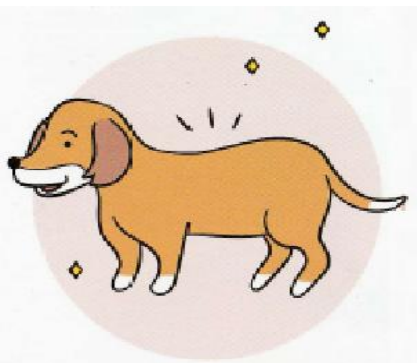


コルチゾールが大量に生産されると、このような症状が出るんだ。
飼い主さんも気づくことが多いかも。

治療

下垂体性、副腎腫瘍の場合もまず、飲み薬で副腎に働きかけて、副腎から分泌されるコルチゾールの生産を抑えます。腫瘍の場合は手術をすることもあります。

最適な投与量を決めるために
コルチゾールを定期的に検査
していくんだよ。



★院長のコラム★

何故か犬にはクッシング症候群が多発します。猫にはほとんどありません。最近では、超音波検査機器が進化して非常に小さな臓器も鮮明に描出できるので早期の診断ができるようになりました。特に超音波診断に力を入れている本院では難しい副腎の描出も問題ありません。しかし、クッシング症候群は症状、画像診断、血液検査などを総合して診断します。完治する病気ではありませんが、上手にコントロールすれば質のいい生活が長期間続けられると思います。